

# 平成30年度 第3回 彦根市子ども・若者会議

平成31年(2019年)2月4日(月) 午後2:00~3:45  
彦根市福祉センター別館2階 集団健診室

## 1 子ども未来部長あいさつ

## 2 議事

- (1) 次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査経過報告
- (2) 次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査結果速報について
- (3) 次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査結果報告書のまとめ
- (4) 調査・会議開催等スケジュール
- (5) その他

資料1 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査内容・経過等

資料1-2 調査票（7種類）

参考資料 「彦根市子ども・若者プラン」位置付け関連・策定時調査等

資料2 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査結果（中間集計・現況値）速報

資料2-2 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査結果（中間集計）

資料2-3 次期「彦根市子ども・若者プラン」策定に係る調査結果（中間集計）自由記述抜粋

資料2-4 彦根市ヒアリング調査結果速報

資料3 平成30年度・31年度年間スケジュール（次期計画策定調査・子ども・若者会議開催）

参考様式 平成30年度（第3回）子ども・若者会議への意見等 報告書

### 【事務局】

ご案内のお時間になりましたので、ただいまから平成30年度第3回彦根市子ども・若者会議を開催します。皆さま方におかれましては、大変お忙しい中、当会議にご出席いただきましてまことにありがとうございます。会議の開催にあたりまして、子ども未来部長がご挨拶申し上げます。

### 【子ども未来部長】

皆さん、こんにちは。本日はお忙しいところ、平成30年度第3回彦根市子ども・若者会議にご出席いただきましてありがとうございます。また皆さま方には日頃より市政、とりわけ子ども・子育て支援、若者支援にご理解とご協力をいただきまして本当にありがとうございます。本日のこの会議では、昨年、皆さまにご苦勞いただき、ご審議いただきました次期彦根市子ども・若者プラン策定に係りますアンケート調査について、年末から年始にかけて調査を実施しましたので、その調査結果の速報をお知らせさせていただき、皆さま方の中から調査結果報告書のまとめ方などについてご意見をいただきたいと思っております。

調査結果速報については全ての回答を反映させたものではありませんが、市民の皆さんの子ども・子育て・若者支援、子どもの貧困についてどのように考えておられるのかの傾向をお知らせさせていただけるものと思っております。

限られた時間で大変申し訳ありませんが、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。簡単ですが、私の挨拶とさせていただきます。どうぞよろしく申し上げます。

### 【事務局】

本日の子ども・若者会議については、全委員20名中11名のご出席をいただいております。また2名の委員については遅れてご参加いただけるとご報告をいただいております。

彦根市子ども・若者会議条例第6条第2項では、会議は委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことはできないとされていますが、ただいまご報告をさせていただきましたように本日の会議は定数を満たしていることをご報告させていただきます。

それでは事務局側の出席者を紹介します。

(事務局紹介)

(資料確認)

### 【事務局】

なお、本日の会議については当初の通知に記載させていただいております通り、午後4時をめどに終了させていただきたいと思っておりますので、進行について皆さまのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

それではこれから条例第6条第1項の規定により、会長が議長になっていただき、議事の進行をお願いしたいと思います。会長、よろしく申し上げます。

### 【会長】

第2回が11月2日に行われ、その時にアンケート内容について「項目が多いのではないか」とか、「回収率がどうのこうの」という話が出ておりましたが、今日、速報値が出てきています。大きなところではご挨拶でもお話いただきましたが、速報値ということで、いろいろとアンケートの結果が出ているわけですが、まとめ方ということをご意見いただかなければいけないということで、例えば、それぞれのアンケートでこういう数値が出ているけれど、こういう人たちのこういう結果とか、いわゆるクロス集計とか、こういう経過を知りたいねというところをそれぞれのお立場から忌憚のないご意見をいただければと思います。

今日の会議の意見聴取を元にして、今度、報告書の案が出てくるということですので、今日いただいたご意見がやはり反映されるということですので、どうかそれぞれのお立場で、もちろん分かりにくい部分はその都度質問していただいたら結構かと思っておりますので、限られた時間ではございますが、どうぞご協力のほどよろしく申し上げます。

それでは次第に従いまして進めてまいります。議事（１）次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査経過報告について事務局から説明をお願いします。

議事（１）次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査経過報告について  
議事（２）次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査結果速報について

**【事務局】**

（資料１、１－２を用いて説明）

（資料２、２－３、２－４を用いて説明）

**【会長】**

アンケートをとっていただいて、出てきた数字や出てきた回答を羅列的というか、何も操作しないで出していただいたということですが、いかがでしょうか。感想でも結構ですし、ご質問、ご意見がありましたらお願いします。

私からですが、回収率が下がっているということで、いろんな要因があるとは思いますが、一番大事なのは、回収率が下がったとして、いわゆる統計上の精度がどうであるかということが心配なんです。この数値を分析した時に、やはりこの数では駄目だよというふうになったとしてもどうしようもないのですが、この辺りはどうでしょうか。大前提となる数値として、大体傾向が見られるものなのか、ちょっと難しいのか、そこを教えてください。

**【事務局】**

一般的にアンケートというレベルでは100サンプルあれば、大体の傾向がおさえられるといった、そういう答え方というのがありますが、統計的な方法論に従いましては、信頼できる範囲が95パーセント以上というサンプルを確保するためには、384という一定の数値が挙げられています。今回の就学前や小学生の結果については、おおむね95パーセント信頼できるというような結果が得られていると思います。

また、100名弱、84名ぐらいですと、信頼度が90パーセントぐらいというような、そういう切り口での信頼区間ということもありますので、おおむね今回の調査結果におきまして実数で回収数を確保しているところについて、159とか624というところは大丈夫だと言っても問題ないかと思います。

あと、子どもの生活資源量調査であるとか支援に関する調査については、施設を対象に補完的に、定量的調査を補完する定性的調査を実施していますので、そういったところの切り口で、量だけでははかれない部分と併せた調査結果分析ができると考えています。

**【会長】**

おおむね精度としてかなり高いものであるということによろしいですか。一点分からなかったのですが、384という数字は何ですか。384を超えると、という。

**【事務局】**

384サンプルあると、95パーセントの信頼性が確保できているという説明でございます。

**【会長】**

ということで、このアンケートが無意味なものではないということを確認いたしました。そこを前提として、非常に有効であるということでご質問やご意見はいかがでしょう。

**【委員】**

おおむね評価といいますか、アンケート結果を見ても子育てのしやすさだとか、決してそんなに悪い結果じゃないのかなと思って見せていただいています。

まとめ方のところで、意見になるのか質問になるのか分かりませんが、特に子ども・若者プランということでアンケートをとっているところと、子どもの貧困対策計画の策定にあたってのアンケートとで、集計の仕方が前回調査の時とちょっと違うのかなと思います。割合の高い、例えば、今後期待

する施策とか、利用したいものということで考えた時に、全体数を見た時に順位の高いものを市としての施策化なり、制度化する、カバーするということが大前提だと思いますが、子どもの貧困対策計画は、より困難度の高いところにスポットを当てた施策や制度を重点的に取り組むということであれば、必ずしも全体数を見るのではなく、先ほどクロス集計の話があったと思いますが、困難を抱えているであろうと思われる背景の、全部の世帯がそうだとはいませんが、例えば、ひとり親世帯であるとか、質問の中で、経済的に困難を抱えているとか、そういった回答をベースに、そこからより困難度の高い世帯が選択している施策を重点的にするという考え方もあると思います。その辺りがどういう集計をされるかで変わってくるのかなと。

先ほど自由記述を出してもらいましたが、同じように、そんなに苦勞されていない、そんなに困っていない世帯の方が書いている意見を全体の意見として出しているのか。その辺りの見方としては、そういったケースもあるかなという気がしました。

あとは、子どもの貧困対策計画ができていない関係で、おそらく子ども・若者プラン策定の時には、そういった背景の集計がまだまだされていないのかなと思いますので、ちょっと今、見させていただいた中で感じたこととして挙げさせていただきました。

私はどうしても社会福祉協議会で地域福祉を担当しているので、こういう意見になってしまうのですが、これから行政として施策や制度を考えていくためにアンケート調査をしたのか、または地域を含めて担ってきた機関もありますし、その辺り役割分担や連携ということを想定して強化するのかと。

行政が全ての期待されていることに応えていくには人もコストも時間も足りないと思いますので、どういう背景で今回のアンケート結果を採られたのか、その辺りも整理していただく必要があるのかなと思いました。以上2点です。

#### 【会長】

2点とおっしゃいましたが、結局、私はどちらも一緒だなと感じました。つまり、例えば、2つ目の行政の施策のためか、役割分担のためかということもクロス集計、例えば、特定の方にスポットを当てて見た時に、どこに期待を寄せているかというところが見えてくるのかなと。その辺りをやはりある程度、この辺りにスポットを当ててみようよということのご意見をいただければ、その辺りは今日の3番の次期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査結果報告書のまとめ、ということと関わるのかなとも思いますので、ここを含めてご意見をいただけたらと思います。

事務局、(2)(3)同時進行であれば意見が出やすいと思いますが、何かこれについての説明はございますか。

議事(3) 時期彦根市子ども・若者プラン策定に係る各種調査結果報告書のまとめについて

#### 【事務局】

(報告書のまとめ方の説明)

#### 【会長】

それでは今回の速報値プラスまとめ方の方向としてのご意見もいただければと思いますが、いかがでしょうか。

私から1点、森委員が今おっしゃったようなことで、例えば、貧困の家庭について、アンケート項目で、例えば、「買えない」という家庭に対して、どういうことを望んでおられるかということもあるでしょう。例えば、私に関心を持ったのは、資料2-2の14ページ、就学前の児童の調査で子育てに関して不安や負担を何となく感じるという数を合わせると、半数以上がそうお考えということになります。こういう方に注目すべきで、おしなべて平均すると、これが一番強いですよではなくて、こういう家庭が何を望んでおられるか。市や地域に対して求めていることとか、そういう設問があると思いますが、その辺りをピックアップしていくことによって、より困っておられる方が必要とされているものをクリアにしていく必要があるのではないかと。これは例ですが、多分小学生のアンケート調査にもあった項目だと思いますが、困り感を持っておられる方が何を望んでおられるか、それが全てではありませんが、そういう傾向をやはり見ていくべきではないかなということを感じました。

こういったようなところを各委員の皆さん、それぞれのお立場で出していただけると報告書の方向性が見えてくるのではないのでしょうか。委員の発言に加えて申し上げました。いかがでしょうか。他の質問、ご意見でも結構です。

#### 【委員】

調査を拝見いたしました。会長や別の委員がおっしゃっていた通り、いわゆる統計の中で困難な部分が非常に見えてくる場所があったかなと思います。33ページを見ていただくと、外出の頻度ということで、159の数に対して15名の方が、いわゆるひきこもりということで訴えられている方がおられると。全国的な統計調査数からは非常に高い数値で言われています。ひきこもりの方の定数調査は、なかなか見えてこないというのが正直、どの調査を拝見してもありますので、例えば、クロス集計のようなものも、ここで外出の頻度が少ない方がどうかたちで他の項目に答えられているのか。ある意味、普通に仕事をされている方、言い方は変かもしれませんが、数はそちらのほうが多くなってきますが、そちらではなく、困難を抱えている方的人数であるとか、必要な部分が非常に明らかになってくると、159の調査数の中で声を挙げていただいた方15名おられるというふうに見ていくと、今後の施策に対して、こういうふうになっていくのかなと思いました。

また、就学前調査とか就学中の児童の調査の中で、お父さんお母さんの就業状況であるとか、就業日数であるとか、働いている状況のようなものがすごく丁寧に聞かれていた部分が非常に印象に残っています。お父さんお母さんがどういう状況にあって、子どもがどういうふうな状況に置かれるのかというクロス集計があると非常にいいと思います。両親が働かれていて、子どもが一人なんですということになってくると、自由記述にもありましたが、千円だけ渡して数日間子どもだけで過ごさせるという家があると思います。そんなことももしかしたらこういった部分から見えてくるのかなと思いました。結果的に載らなくてもいいですし、何かそういうものを皆さんで情報共有されながら施策に生かしていただければと感じました。感想のようになりましたが以上です。

#### 【会長】

まず1点は若者の意識調査で、外出しない、引きこもりの傾向にある方がどういうことを思っておられるかというところ。それから働き方によっての子どもとの関係とか、その辺りも見えるのではないかと。確かに女性の社会進出は平成25年の前回の調査よりかなり上がっていて80パーセント近くになっていると思います。その辺りの傾向を読み解くというのも一つかなと思います。まとめ方としてご指摘をいただいたと思います。

加えて、若者の意識調査で、例えば、資料2-2の35ページをご覧ください。一番下、子どもや子育てについてのイメージが楽しいというのがありますが、責任を感じる、自由がなくなる、不安があるという回答が結構あって、子育てに関してネガティブというか、しんどいなと思っている人が多い。そのしんどさを感じている人と楽しいと思っている人の違いは何なんだろうと。このあたりでの不安とか、困難さの要因を熟慮できるようなものが見えてこないかなと。アンケート調査だけでは無理かもしれませんが、そういうクロスも可能ではないかなと今、ご意見をおうかがいして思いました。

#### 【事務局】

できるかどうかについては考えさせていただきます。

#### 【会長】

というよりも、こういうものがあつたらどうですかというご意見で、できる、できないはまた専門的な統計等で相談していくことになると思います。やはり視点としてどうでしょうか。いろいろとお気付きのことをこの場で出していただけるとありがたいです。いかがでしょうか。

気が付いたことを私から言っていこうと思います。41ページ、子どもの生活に関する調査で、えっと思ったのが、問D4-1「医療費を支払うことが難しかったため」という回答が想像以上に多いなと思いました。つまりお金がないから病院に行けないよというのが、調査数83人に対して28人もあるというのがちょっと多いと思います。こういう答えをされた方が、実際どういうことを求めておられるかということを知りたいなと思います。多くありませんか。非常に多いなと思ったのですが。

例えば、病院に行けないから行かなくて重篤になってしまう人がいるということですよ。ちよっ

とびっくりしました。

**【事務局】**

先ほどの病院や診療所に行くことができなかったということに関しては、前回の調査でも38.5パーセントの方が医療費を支払うことが難しかったということでご回答いただいています。一般的に比べると高いというイメージがありますが、前回調査値と比べると大きな差はないのかなと考えられます。

**【会長】**

例えば、前回その項目があった時に、この方がどういう生活で求められているかという、そういうクロスは掛かっているでしょうか。

**【事務局】**

そこまではなかったかと思います。

**【会長】**

そのあたりをピックアップできると、何か見えてくるかもしれません。見えないかもしれませんが、今後の施策あるいはニーズの元になるかなということだと思います。前回と照らし合わせて見ていないのですが、下がってはいるということですね。

**【事務局】**

はい。

**【会長】**

いかがでしょうか。

**【委員】**

先ほどと違う意見で申し訳ないのですが、子ども・若者プラン策定にあたっての調査は、5年経過していると思いますので、いわゆる経年変化、比較していただけるのか。アンケート結果も見せていただきましたが、前回からの比較というのを出していただきましたが、より困難度の高いところにスポットを当てて施策を展開するということは、もちろん行政として必要だと思いますが、一方で大多数の方がニーズを持っているところに市として行政として施策を展開していくということも必要だと思います。ポイントが改善されているといいますか、よくなったところは出していただきたいなと。そこがやはりこのプランを元に、毎年、自己評価としての目標設定に対しての評価をしていただいていると思いますが、それをやはり市としてどう反映しているのかということがこのアンケートから見えてこないと思います。

先ほど困難なところにスポットを当ててしまいましたが、それはそれとして、今回、集計していただきつつ、評価が上がったところはぜひ強調していただくように報告書をまとめていただきたいと思います。

**【会長】**

前回と同じアンケート項目もありますよね。その辺りの経年変化、すべてではありませんが、改善されている、あるいは悪くなっている部分について、そのあたりの特徴的なものを出していくということも報告書としては大事なかなというご意見をいただきました。

参考までですが、米原市の情報としてお伝えしますと、アンケートの速報値が出るのが早かったのですが、経年変化で見られる速報値を出しておられましたので、その中で顕著なものというのが見やすかったので、今のご意見は私も賛成です。経年変化で見えていきましょうというご意見をいただきました。ということは子どもの貧困もできるということですね。

**【事務局】**

はい。

【会長】

アンケートの内容はほぼ一緒ですか。

【事務局】

はい。大体一緒です。ただ、実施時期としては、子ども・若者プランのほうは5年前ですが、子どもの貧困対策計画は2年前になります。

【会長】

2年前と5年前という違いがあるということです。他にいかがでしょうか。

【事務局】

今、見てもらってなかなかご意見出しづらいかもしれませんので、意見のほうをこの後、数日間受付させてもらえたらと思いますので、その提案をさせてもらってよろしいでしょうか。

【会長】

議事を進めるというか、会を進めるということですか。

【事務局】

そうです。

【会長】

一点だけ、自由記述について前回はどのように出されたのでしょうか。こういうケースがありましたよということだけだったのでしょうか。特に何か分析をしたということではなかったように思いますが。

【事務局】

(仮称)彦根市子ども・若者プラン策定に係る報告書については、自由記述はないような状態になっています。それから子どもの貧困対策計画については、資料の60ページをご覧いただければと思いますが、それぞれの項目ごとに何件で、どういった意見がありましたといったまとめ方をされています。このような子どもの貧困対策計画でまとめたような方法で、できたらカテゴリー別にまとめていったらと考えています。

【会長】

全部ではないけれども、こういう意見がありましたよというところを出すということですね。前回は自由記述はありましたか。載せていないだけでしょうか。

【事務局】

ありましたが、報告書にはまとめていないということです。

【会長】

今の事務局の答で、自由記述を前回は載せていないけれども、今回は載せていきたいと思いますということ。そこで何かかなり強い意見としていくつか出ているというものは、出すということですか。

【事務局】

はい。

【会長】

いきなりご意見が出にくいので、どうぞお願いしますといっても難しいですので、それでは事務局のほうから今後、こういうふうなお願いをということで事務局よりお願いします。

**【事務局】**

(参考様式 意見等報告書について説明)

**【会長】**

報告書というところで、いろいろなご意見をここで頂戴するというところでお願いできますでしょうか。よろしくお願いします。ということで、そのお願いがあるということです。

それでは進めてよろしいでしょうか。次、(4) 調査・会議開催等のスケジュールでよろしいでしょうか。

議事 (4) 調査・会議開催等のスケジュールについて

**【事務局】**

(資料3を用いて説明)

**【会長】**

何かご質問はございますか。今年度もう一回あるということです。31年度は任期の関係で委員の改選があるというご説明でした。よろしいでしょうか。

それでは非常にタイトなスケジュールになっていますが、よろしくお願いします。それでは議事(5) その他について、事務局より説明願います。

議事 (5) その他について説明

**【事務局】**

(次回会議の日程調整)

**【会長】**

それでは本日いただいた意見プラスまだお寄せいただいた意見を元に報告書案が次回出てくるということです。期日までにご意見をお寄せください。

それでは本日の議題は全て終了ということです。事務局にお返しいたします。

**【事務局】**

次回の会議については、先ほど日程調整をさせていただきましたが、3月14日午前10時からにさせていただきますと思います。改めて開催通知を発送させていただきますと思います。また、先に資料をお配りし、意見聴取もさせていただきますと思いますので、よろしくお願いします。

それから今日の会議のご意見もまた2月12日までにご提出いただければと思いますので、よろしくお願いします。

これで全ての議事を終了しましたので、これで第3回彦根市子ども・若者会議を閉会させていただきます。皆さん、長時間お疲れさまでした。ありがとうございました。

(終了)